

★守山市内の校園で見つけた合理的配慮を紹介します★

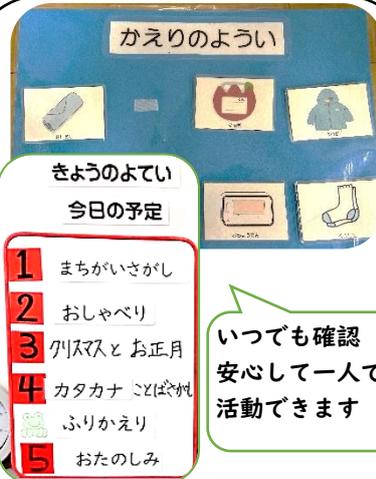
「合理的配慮」とは、一人一人の障害の状態やニーズに応じて、必要な人に支援を提供するものです。一人ひとりの子どもがもつ学習の特性や、個人の状況に応じた支援が必要であり、適切な実践が必要です、ここでは、守山市内の校園を訪問相談や訪問支援で訪れた際に見つけた合理的配慮の事例を、タイプ別に紹介します。

ポイント

<生活の見通し>

- ・「いつ」「どこで」「何を」「どのよう」に分かる。
- ・あらかじめすることが分かると安心。

一目で確認！絵や写真も効果的



いつでも確認
安心して一人で
活動できます

<集中・注目のさせ方>

- ・注目する所はココ！と分かる
- ・不要な情報・掲示はなくす！
- ・子どもたちの興味をひきつける工夫を。

見てほしい所だけを強調！



座る所にマットを用意。
周りに掲示物はありません。

<刺激への配慮>

- ・視覚や聴覚、触覚など感覚の過敏さへの理解と配慮。
- ・刺激量を減らし、ストレスの低い状態での生活を目指す。

苦手な刺激を取り除き 力を伸ばす



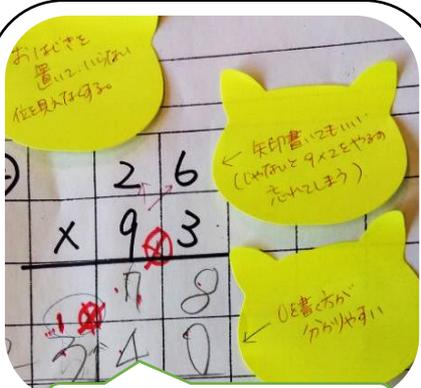
鉛筆と紙のこすれる音や感覚が嫌なので、ラミネードでテスト用紙を挟み、マーカーペンで書けるようにしました。

具体的な支援

<指示の理解>

- ・できるだけ少ない指示を、段階的に行う。
- ・視覚的に確認できるようにする。

覚えやすく、シンプルな指示が◎

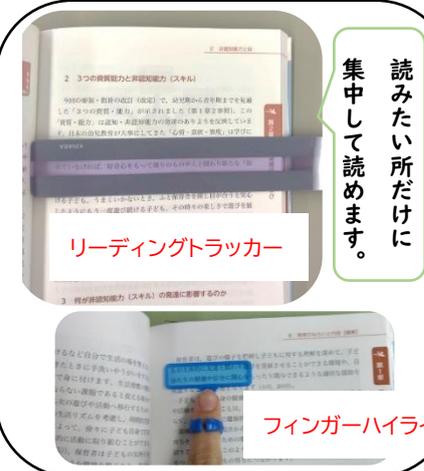


指示は一つずつ
子どもの速さに合わせる

<読みの困難さ>

- ・言葉のまとまりに/を入れる。
- ・文字を大きくする。
- ・漢字にはルビをつける。
- ・文章を読み上げる。

視点を動かすのが苦手な人には・・・



読みたい所だけに
集中して読めます。

<書きの困難さ>

- ・書く量の調節をする。
- ・書くべき範囲をしばって板書。
- ・タイピングや板書の撮影を許可する。

困っている理由の見極めが重要！



具体的な支援

ほんの一例を紹介させていただきました。校園の先生方が一人一人の子どもにたくさんの工夫をされています。子ども自身が、「私はこうすればできるよ」と相手に伝えられ、自信をもって生きていけるのが一番の願いです。